

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [博多航大]

学年・組・番号 [3 年 L 組 13 番]

研究課題： 対馬における離島医療が抱える課題

(英文) Healing in Isolation: The struggles of Island Medicine in Tsushima

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

私は今回あるきっかけから対馬の医療を研究しようとした。本州と対馬の間を行き来するドクターヘリが墜落してしまったというニュースである。対馬はいわゆる“離島”であり、多くの医療問題を抱えている。その一つが医療アクセスの悪さである。対馬では山間部が多いことから道路が隅々まで整備されていない。そのため、救急車の到着がたびたび遅れてしまう。そこで活躍するのがドクターヘリである。救急車の代わりとして使われるのもそうだが、ドクターヘリの一番の長所は島内では対応できない大きな病気の患者を本州の治療が可能な病院に搬送できることである。この活躍があって対馬での医療は守られてきたのだがこの事故があってからドクターヘリは運行をやめてしまったのである。つまり助かるはずだったかもしれない命も見捨てることになるのである。そこで本研究では、離島としての対馬が抱える医療問題について、行政や島民などからの聞き取り調査を行うことで明らかにした上で、他の島嶼地域と比較し、離島医療一般の課題をいかに改善していくか検討することを目的とする。離島についてはその隔絶性や後進性などの負の側面が強調されがちであったが、現在の離島政策では、島民が居住を継続することこそが経済的にも安全保障上も重要であるとされている。離島の医療問題の解決は国家的な課題であるという視点と、地域住民の生活を守るという視点の、両面からこの問題について考えていくことで、複眼的な発想による解決策を模索したい。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

本研究は、長崎県対馬における救急医療体制、とりわけドクターヘリ運用の課題と改善策を明らかにすることを目的とした。対馬は地理的条件や医療資源の制約から、高度医療を必要とする患者を本土へ搬送せざるを得ない状況にある。病院関係者へのインタビューおよび聞き取り調査の結果、ドクターヘリ要請から治療開始までに 90 分以上を要する場合があります。救急医療において重大な時間的課題が存在することが判明した。そこで島内常駐型ヘリの導入を提案したが、財政面および法制度上の制約から実現は困難であることも明らかとなった。本研究は、対馬の救急医療改善には制度改革と地域住民の継続的な声の発信が不可欠であることを示している。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3 年 L 組 博多航大

研究分担者 3 年 F 組 鈴木凱陽

3 年 C 組 鶴見一太

3 年 D 組 山田龍誠

担当教諭 柿沼亮介

(受給額 : 23000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真 :

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



(上対馬病院での聞き取り)



(対馬商工会での聞き取り)

以上